

# DataLabs株式会社

3次元データで建設業を変革する





社名 DataLabs株式会社

---

創立日 2020年7月7日

---

代表 代表取締役 CEO 田尻 大介

---

本社 東京都中央区日本橋小舟町8-6 H<sup>1</sup>O日本橋小舟町

---

事業内容 3次元データを用いたクラウド型システムの開発・提供等

---

株主 SBIインベストメント(株) / JR東日本スタートアップ(株) /  
(株)ディープコア / 東京大学協創プラットフォーム開発(株) / 杉田浩章

---

社員数 約20名

---



創業者/代表取締役  
**田尻 大介**  
統轄/事業開発

- ・JAXAにてリモートセンシング(衛星データ)の利用普及事業に従事
- ・ドローンベンチャーにて計測事業責任者、新規事業責任者を担当
- 計測事業YoY + 250%を達成
- ・衛星ベンチャーにてBtoB SaaSの事業開発
- クローリング案件数・金額トップ



創業者/取締役  
**常信 敦嗣**  
経理財務/経営管理

- ・ドローンベンチャーにてクロスボーダーM&A、JV開発/資金調達を担当
- ・シンクタンクにて新規事業計画策定PJT、経営コンサルティングに従事
- ・大手企業にて新設JVの経営企画、経営管理業務に従事
- ・東京大学工学部精密工学科にて3次元データ解析を研究



CTO  
**佐藤 大輔**  
R&D/技術開発

- ・京都大学大学院博士課程修了(理学博士)
- ・国内外研究所にて素粒子物理学の研究、画像認識・ロボティクス・三次元データ処理等の研究開発に従事
- ・アプリケーションとしての実用化を複数実現
- ・機械学習を用いた3Dモデリングや画像認識等で複数の特許取得及び学会発表実績
- ・AIベンチャーCTO経験



CLO  
**柴田 和彦**  
弁護士・弁理士

- ・企業法務、コーポレートガバナンス、紛争対応、知財に係る業務など
- 法務・知財の豊富な経験と見識
- ・創業当初からDataLabsの法務関連業務に従事し、事業・技術への理解も深い
- ・東京大学文学部卒業後、神戸大学法科大学院を経て2016年弁護士登録



監査役  
**柳澤 昇平**  
公認会計士

- ・中央大学卒業
- ・あずさ監査法人にて企業会計監査
- ・ベンチャー企業にてPMI業務、IPO支援、監査法人対応、CFO代行
- ・系列税理士法人にて個人確定申告代行PJの責任者、2千人超の確定申告



シニアカウンセル  
**杉田 浩章**  
BCGシニアアドバイザー

- ・ポストン・コンサルティング・グループ(BCG)元日本代表
- ・早稲田大学ビジネススクール 教授
- ・ユニ・チャーム 社外取締役
- ・トランスフォーメーション、デジタルイノベーション、事業戦略、新規事業開発、コーポレート・ガバナンス、グループマネジメントに関わる支援経験が豊富



顧問  
**矢吹 信喜**  
国交省BIM/CIM  
推進委員会委員長

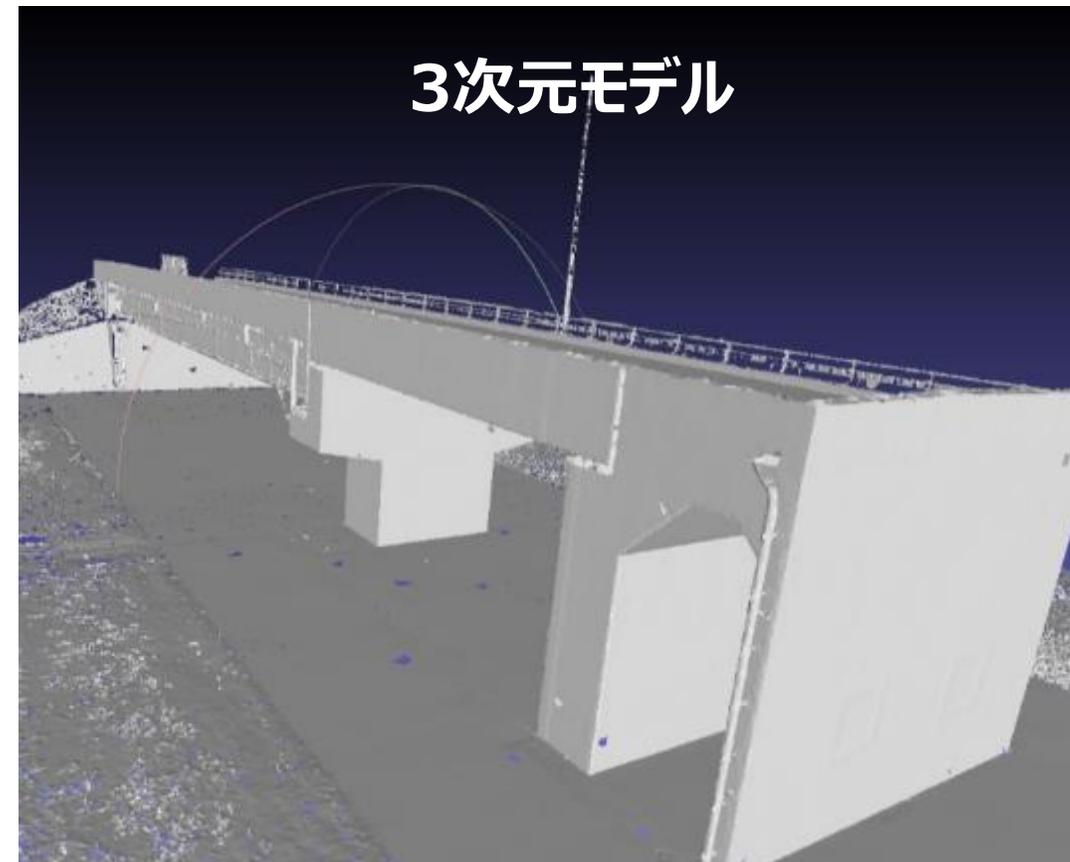
- ・大阪大学大学院工学研究科教授
- 環境エネルギー工学専攻
- ・独自の3次元自動モデリング技術を活用して開発を進める弊社プロダクトが、国交省の推進するBIM/CIM原則化に資するものになり海外展開も可能となるようアドバイス



顧問  
**大竹 豊**  
東京大学大学院  
工学系研究科教授

- ・精密工学専攻 形状モデリング工学研究室
- デジタルエンジニアリング工学
- ・弊社の点群データ自動モデル化技術の優位性を持続させていくため、最先端の技術動向やアルゴリズムの最適化等に関するアドバイス





設計～施工～維持・管理まで、3次元データの活用をご支援

対象業務

設計

施工

維持・管理

WEBアプリ

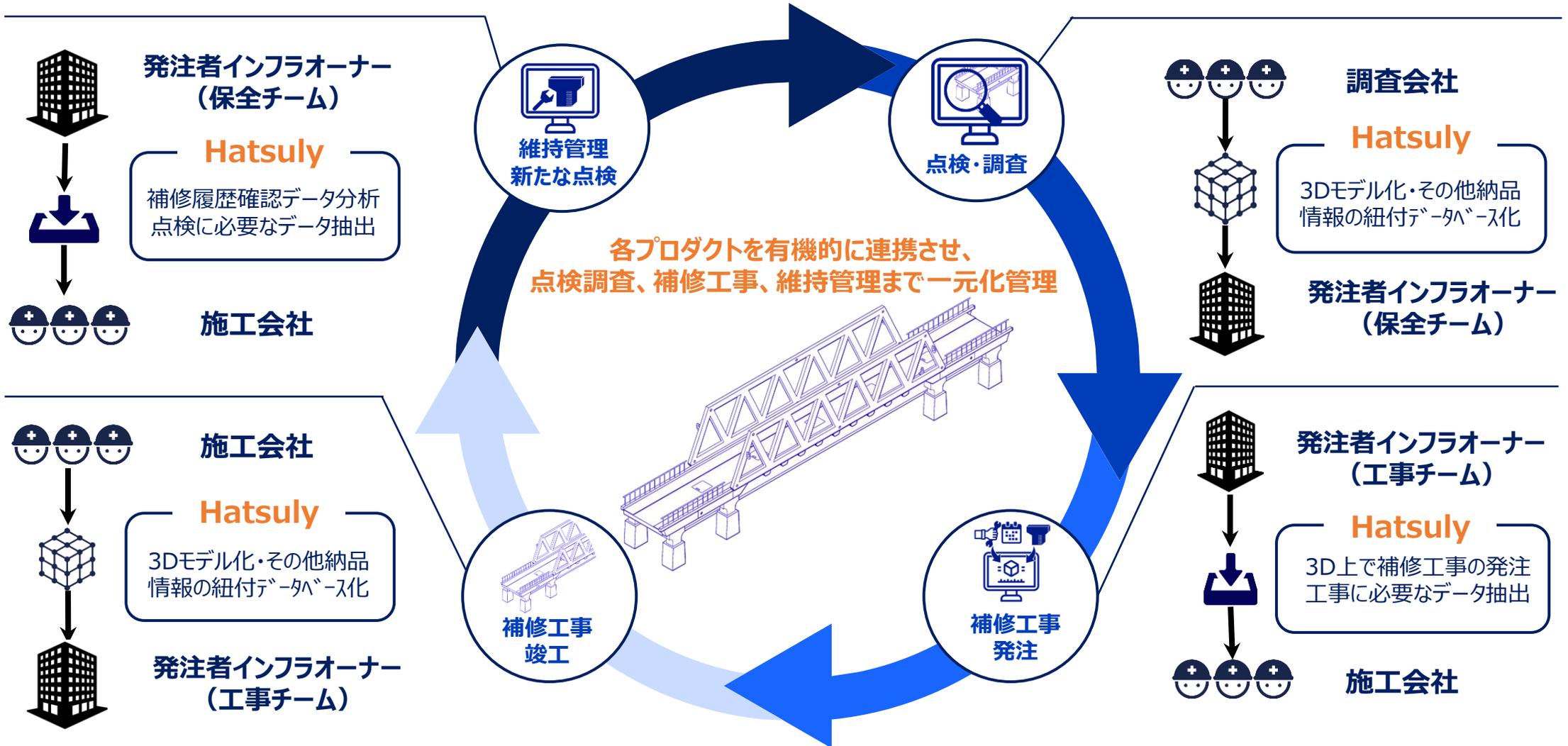
3D配筋検査システム  
「Modely」

3Dインフラ補修システム  
「Hatsuly」

コア技術

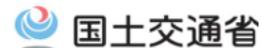
自動モデリング技術

# Hatsuly群：デジタルインフラの世界標準基盤へ

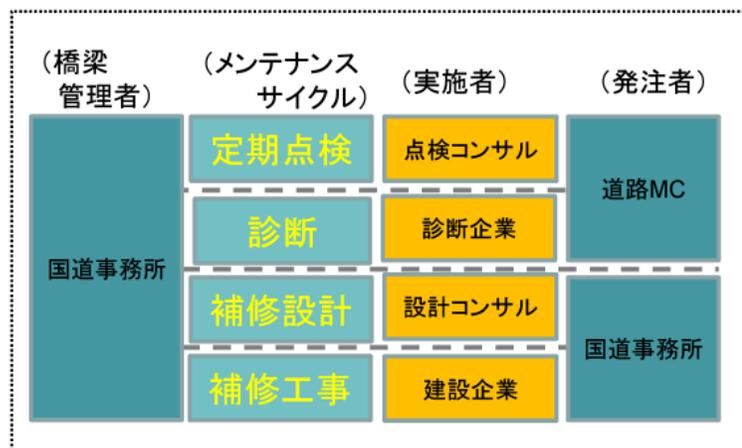


# 国土交通省でも進む3Dベースのインフラメンテナンスの構築

## メンテナンスサイクルにおけるDXの検討



・点検、診断、補修設計、修繕工事のメンテナンスサイクルの生産性向上を目指し、3次元データを活用したメンテナンスサイクルを実証実験



### 現行(2次元データ)の課題

- ・点検結果のデータ整理(履歴管理含む)の非効率さ
- ・損傷記録の品質が個々の技術者の経験に依存(暗黙知)
- ・作業計画のための現地調査をサイクル毎に実施
- ・報告書の損傷詳細写真から該当箇所を探す作業の非効率さ
- ・情報共有が単一的でクローズな環境でのみ

### 3次元データ(画像)を用いた メンテナンスサイクルの検討



### 期待される効果

- ・デジタルデータのオープン運用による効率化
- ・サイクル毎の損傷記録と位置情報の確実性が向上
- ・実施関係者間の情報共有の効率と確実性が向上
- ・実施と発注者間における確実な情報共有
- ・点検足場や点検機材のコストダウン

実証実験により、生産性向上の程度を評価

# Hatsuly

---

コンクリートのはつり作業を伴う工事において、はつり箇所の点群データを取得し、鉄筋やはつり平面をモデル化することで、はつり深さやかぶり厚を計測する。あわせて、はつり箇所に打設するコンクリート/モルタルの必要量を自動算出する技術。

## ①何について何をやる技術なのか？

コンクリートのはつり作業を伴う工事において、はつり箇所の点群データを取得し、鉄筋やはつり平面をモデル化することで、はつり深さやかぶり厚を計測する。あわせて、はつり箇所に打設するコンクリート/モルタルの必要量を自動算出する。

## ②従来は、どのような技術で対応していたのか？

従来手順では、はつり深さ・かぶり厚は水系やメジャーを用いて手作業で計測されている。またはつり箇所の必要なコンクリート・モルタル量は、はつり深さの平均値を各箇所でだまかに決定し、面積を乗じて算出している。

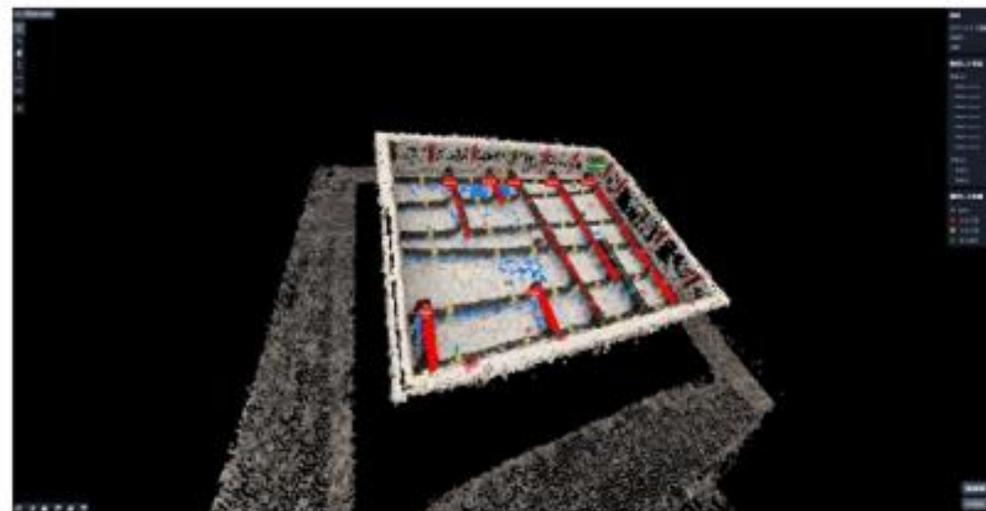
## ③公共工事のどこに適用できるのか？

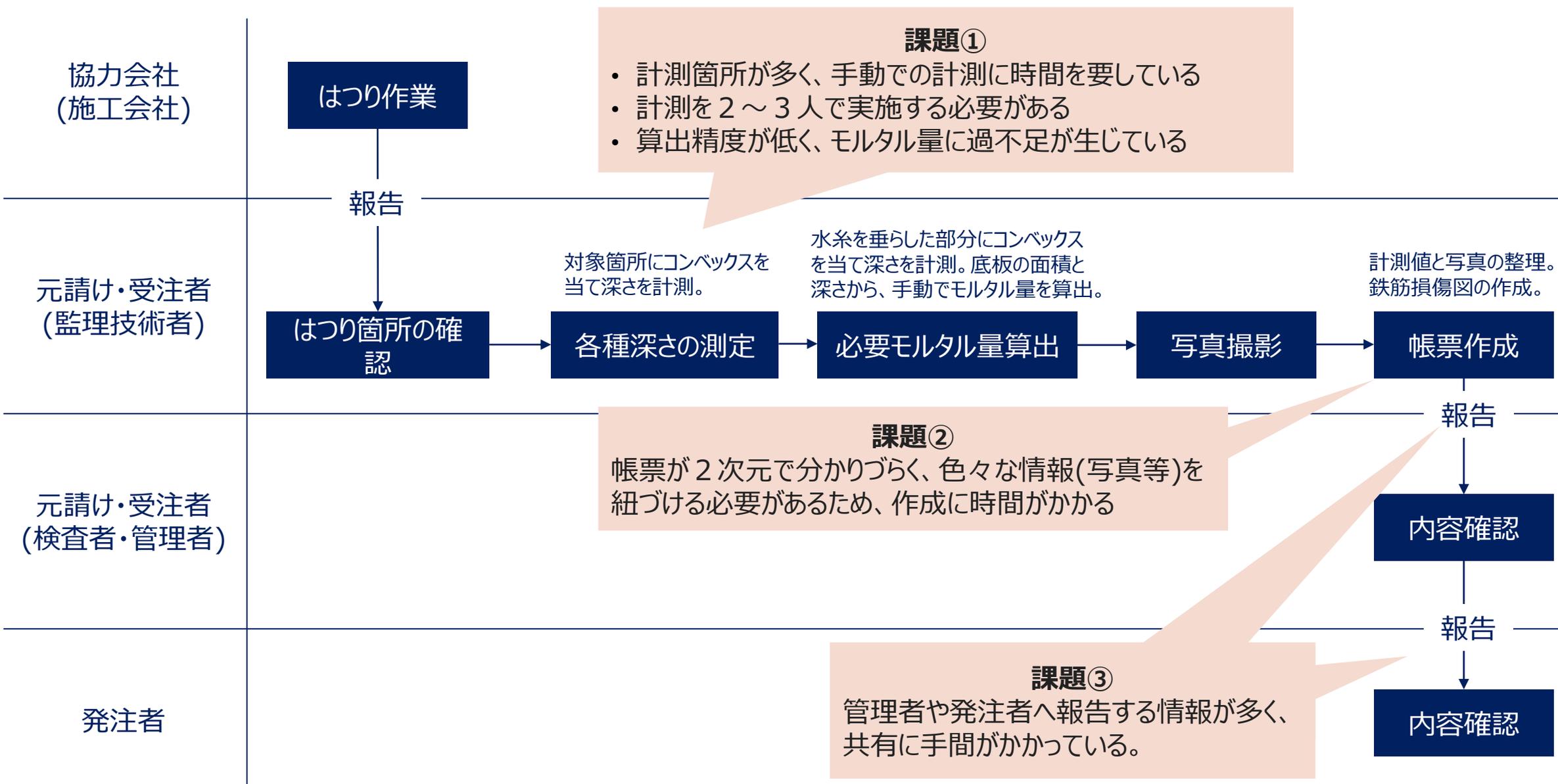
以下の工種のはつり作業に適用が可能である。

- ・ 橋梁床板工> 床版取替工
- ・ 橋梁補修工> 断面修復工、支承取替工
- ・ 構造物撤去工
- ・ カルバート工> 函渠補修工
- ・ トンネル工> 剝落防止工及び内面補強工 等

## ④その他

発注者への3次元データ・帳票の共有機能により、発注者の確認も省力化可能





**課題①**

- 計測箇所が多く、手動での計測に時間を要している
- 計測を2～3人で実施する必要がある
- 算出精度が低く、モルタル量に過不足が生じている

対象箇所にコンベックスを当て深さを計測。

水糸を垂らした部分にコンベックスを当て深さを計測。底板の面積と深さから、手動でモルタル量を算出。

計測値と写真の整理。鉄筋損傷図の作成。

**課題②**

帳票が2次元で分かりづらく、色々な情報(写真等)を紐づける必要があるため、作成に時間がかかる

**課題③**

管理者や発注者へ報告する情報が多く、共有に手間がかかっている。

# 補修工事向け!! 3Dインフラ補修システム 「Hatsuly」

メリット①

1人で完結

メリット②

深さと体積を  
自動算出

メリット③

ラクラク報告

1人で簡単に数量算出できます。

## Before

時間をかけて数人がかりで作業

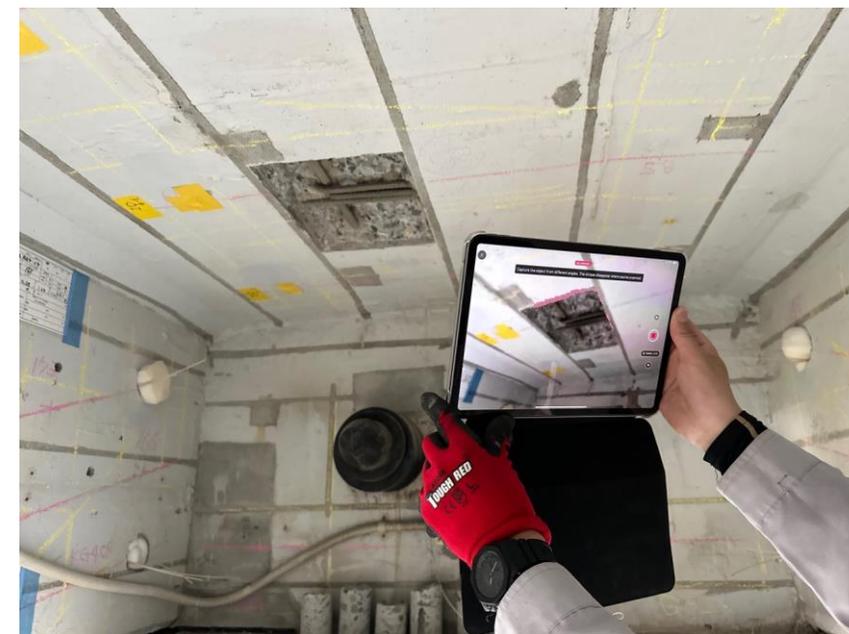


**3人 ⇒ 1人**  
(当社調べ)



## After

iPadで一人で作業



出来形・出来形高管理項目（※） + 鉄筋表面積が自動算出されます。

※はつり面積（長さ×幅）・深さ・体積、鉄筋かぶり厚

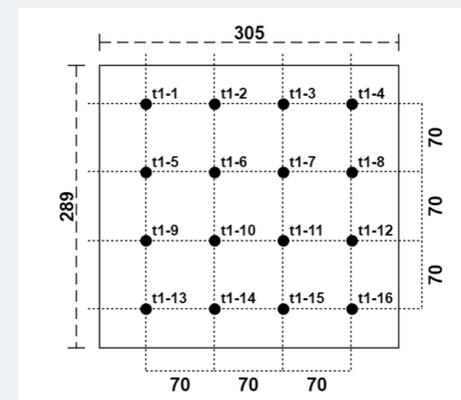
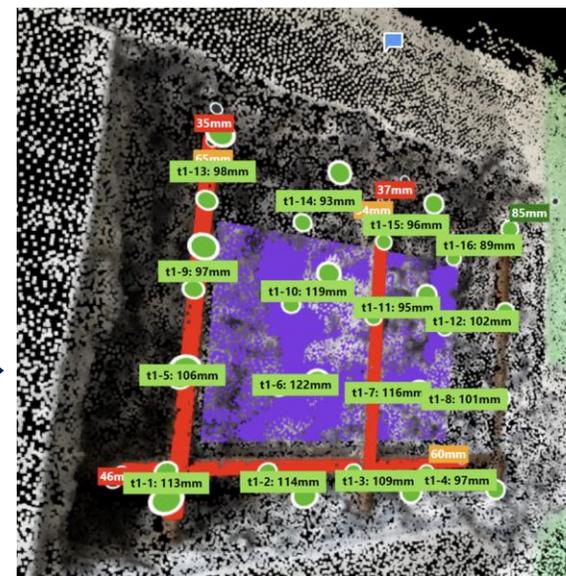
## Before

管理項目ごとに手動で測定、計算



## After

一度の点群計測で管理項目をシステム上で測定可能



体積	実測値	0.0070m <sup>3</sup>
測定した距離	実測値	35.45mm
● 表かぶり厚	実測値	53.92mm
● 裏かぶり厚		

帳票作成と報告の手間を省いて業務を効率化、ワークライフバランスも改善します。

## Before

事務作業が多くて残業



## After

システム上で帳票を自動作成

約 **75%**  
の工数削減（当社調べ）



検査帳票  
出来形表

工事名	Demo (SuDev)	体積の合計	0.0440m <sup>3</sup>
		面積の合計	0.0000m <sup>2</sup>
		鋼筋の実量巻の合計	0.0467t

	実測値	設計値	規格値	差	平面図	グリッド図
辺の長さ1 (mm)	702	700	± 10	合格		
辺の長さ2 (mm)	569	550	± 20	合格		
外周長 (mm)	2538		±			
面積 (m <sup>2</sup> )	0.3983		±			
体積 (m <sup>3</sup> )	0.044		±			
厚さ (mm)	110		±			
裏かぶり厚 (mm)	75		±			
裏かぶり厚 (mm)	15		±			

種別  
工事名  
作成日  
作成者  
office 職種  
body 体積 1

## Before



- 時間をかけて**数人がかり**で作業
- 管理項目ごとに**手動**で測定、計算
- 帳票作成と報告などの**事務作業**が多くて残業

## After



- iPadで**一人**で作業
- 一度の点群計測で**管理項目**をシステム上で測定可能
- システム上で帳票を**自動**作成



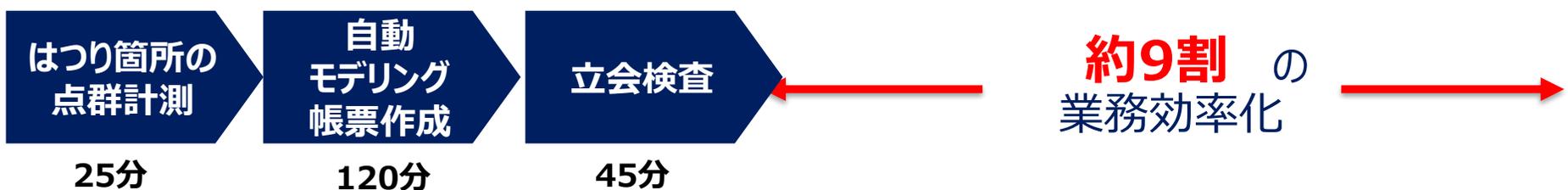
## Before

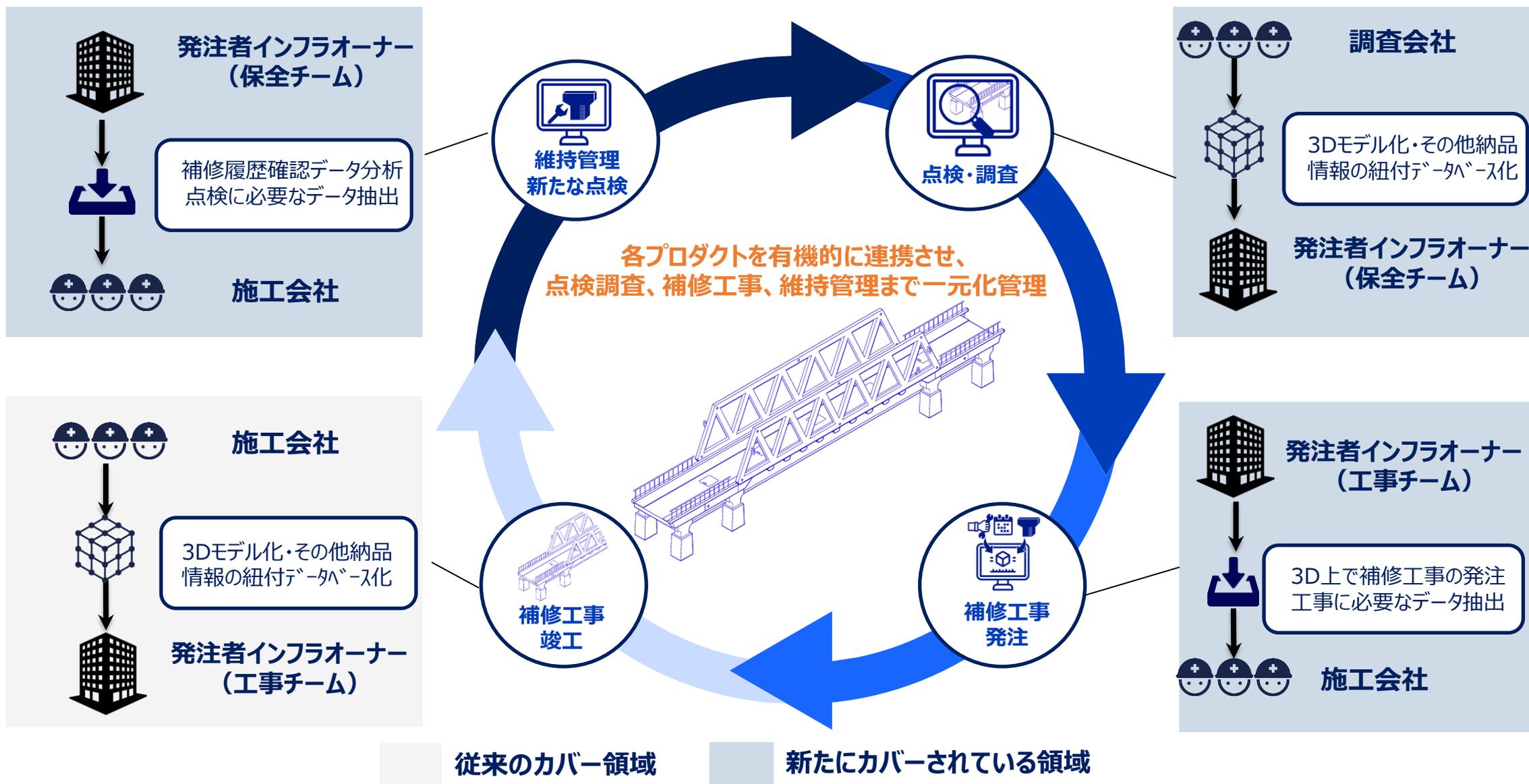
必要人数：3人  
合計時間：1,680分



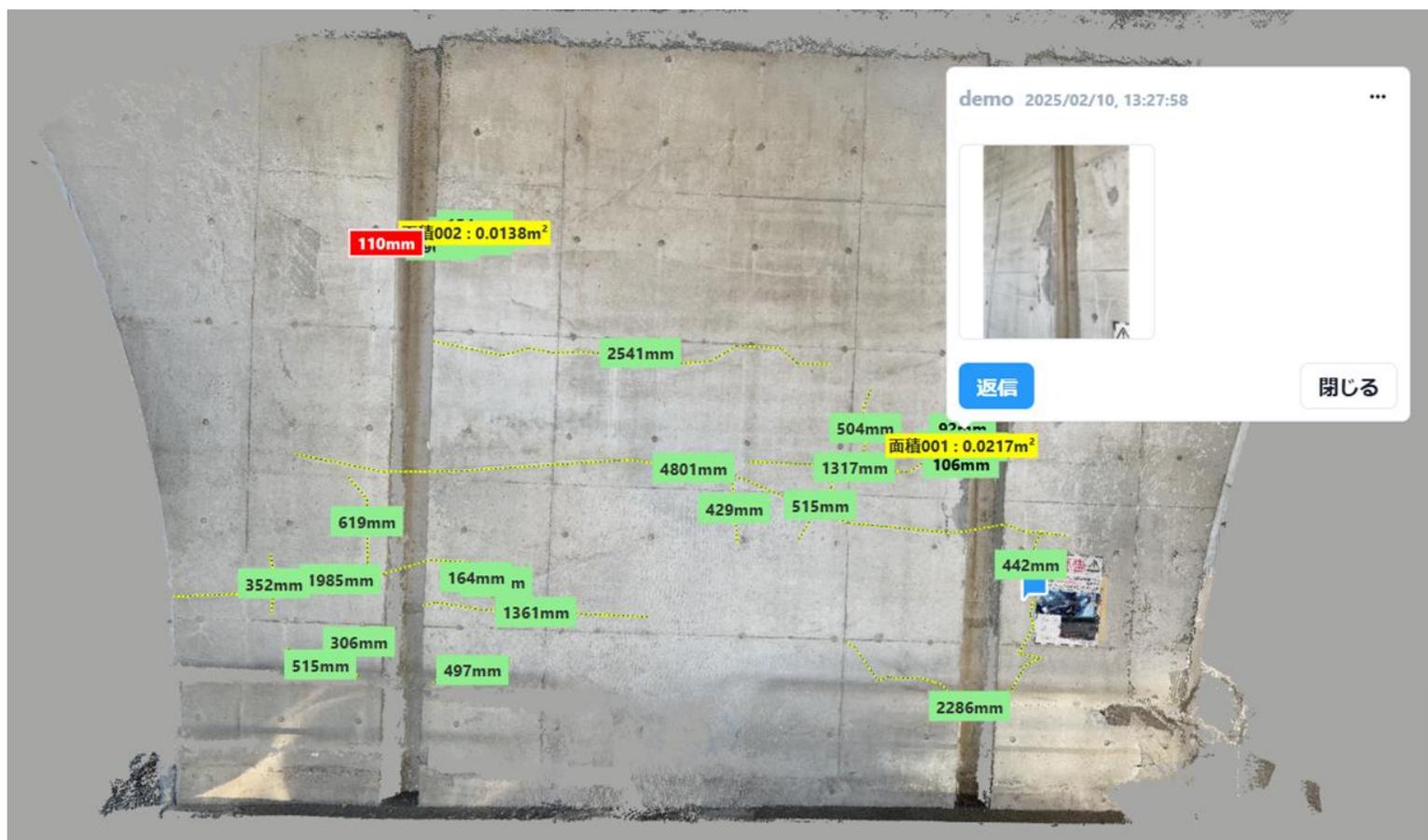
## After

必要人数：**1人**  
合計時間：**190分**





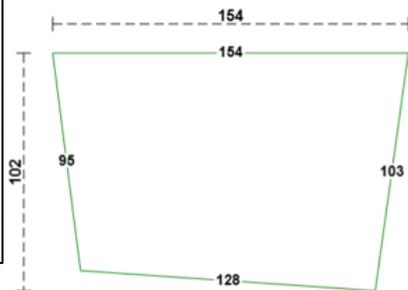
- 補修箇所をスキャンし、点群上でアノテーション（チョーキング）するだけで**損傷展開図（2DCAD図面）を自動作成**。補修点検や現地踏査時のデータ取得及びCAD図面作成、設計変更協議を効率化！
- データ連携により補修工から維持管理にまで及ぶ**3Dベースのインフラライフサイクルシステム**の構築へ



## 数量計算書に各補修箇所の2D CAD図面も自動作成

測点 名称	種類	辺の長さ1 (mm)			
		実測値	設計値	規格値	差
<a href="#">面積001</a>	面積	235	225	10	10
<a href="#">面積002</a>	面積	154			
<a href="#">延長001</a>	延長	4801	4800	30	1
<a href="#">延長002</a>	延長	1985	2000	30	-15
<a href="#">延長003</a>	延長	224	220	10	4
<a href="#">延長004</a>	延長	164	150	15	14
<a href="#">延長005</a>	延長	352	350	10	2

平面図・延長図



[延長001](#)



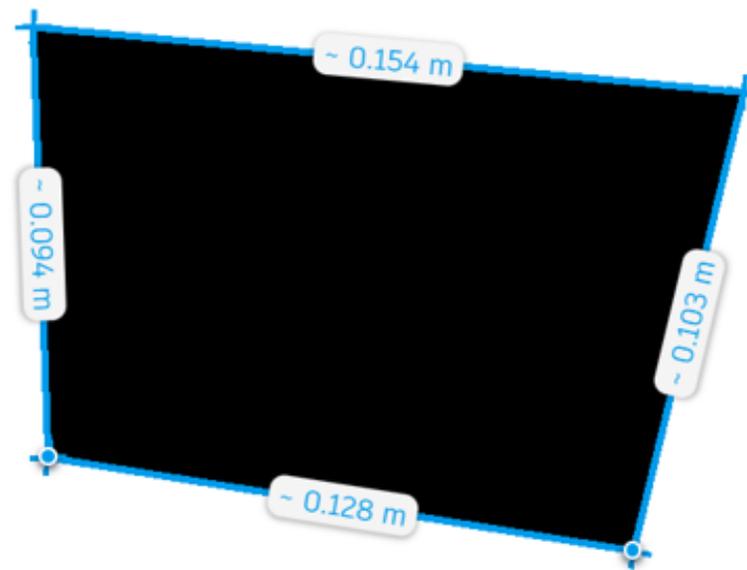
[延長002](#)



## 2D平面図としてエクスポートしたデータ

AUTODESK Viewer > 20250210130025\_2025-02-09-15-48-42\_point\_cloud (1).dxf

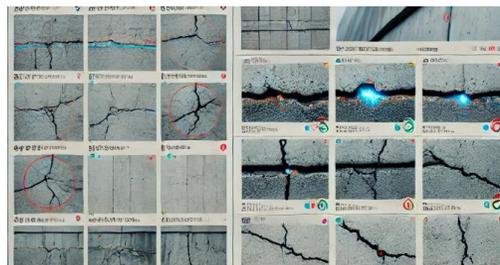
Views Layers Properties Settings



## 従来手法



- 人手による実測で現場作業多
- チョーキングや写真からの補修図面生成により時間も掛かる上に位置・形状の再現精度は落ちる。



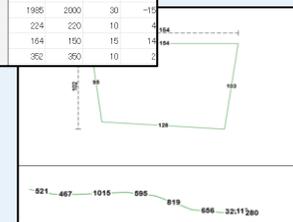
- 補修箇所毎に正対しての写真取得が膨大に発生し、作業時間増（局所的なデータしか撮影できない）
- ひび割れの幅等も結局は人の指定が必要で作業時間増

## 3Dデータによるインフラ点検・記録自動化

画像ではなく！補修箇所の3Dデータ（点群）を取得&Hatsulyへアップ

補修範囲をクリック指定だけで全自動で補修箇所を3Dモデルに

測点	名称	種類	辺の長さ1 (mm)		
			実測値	設計値	規格値
延長001	延長	延長	235	225	10
延長002	延長	延長	154		
延長003	延長	延長	4001	4000	30
延長004	延長	延長	1985	2000	30
延長005	延長	延長	224	220	10
延長006	延長	延長	164	150	15
延長007	延長	延長	350	350	10



確認者	yamada@datalabs.jp	未確認	2022/10/26 16:03	✓
確認者	山田太郎 (DataLabs)	拒否	2022/10/26 16:03	✗
確認者	山田太郎 (DataLabs)	承認	2022/10/26 16:03	✓
確認者	山田太郎 (DataLabs)			



数量計算書（自動合否判定）やCADも自動生成 発注者の招待・確認 遠隔確認・納品

### 3大メリット

1. 作業が1人で出来、現場実測 & 帳票作成の時間/コストを大幅減
2. 着工前の現地踏査後の補修図作成効率化 & 発注者協議資料化！
3. 点群をアップロードしさえすれば数量計算書やCAD図面作成や内業チームと分業化。点検・調査のみにフォーカス出来る。

2025年3月、「現場ニーズと技術シーズのマッチング」において、建設現場の課題解決を目的とした3DインフラDX技術に「Hatsuly」が採択

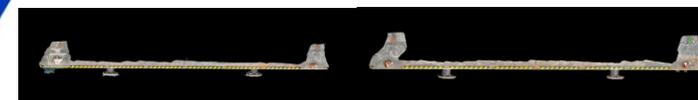
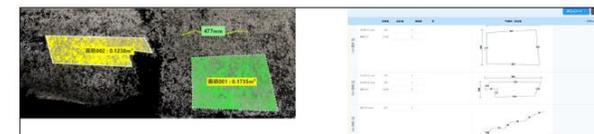
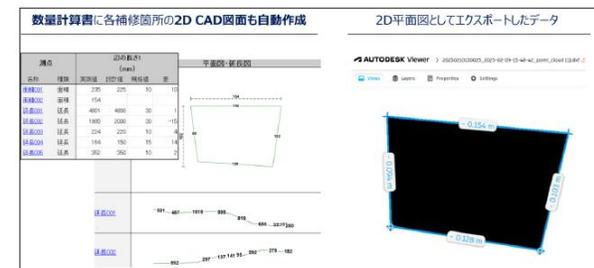
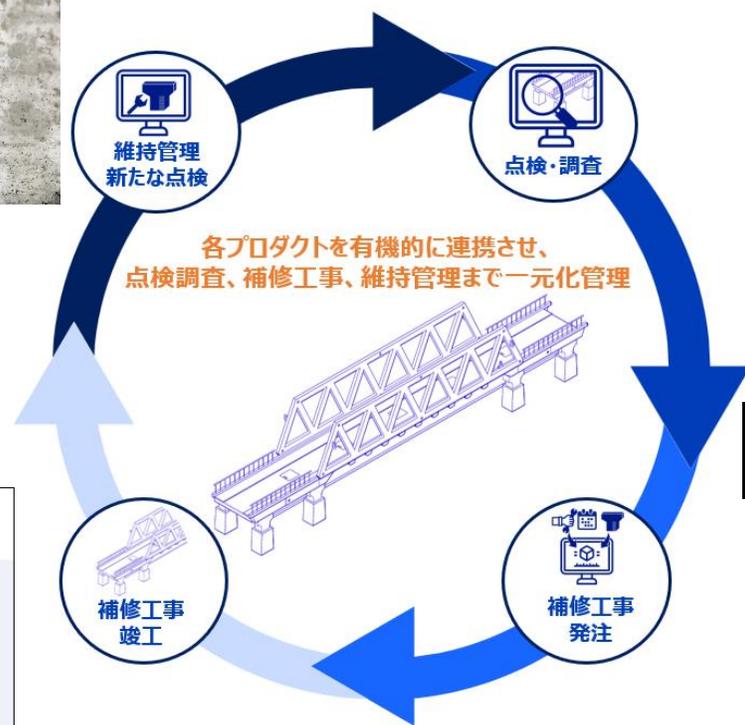
→Hatsulyを活用した3Dインフラメンテナンスサイクルによる省力化・省人化の実証を実施（現場試行評価中）



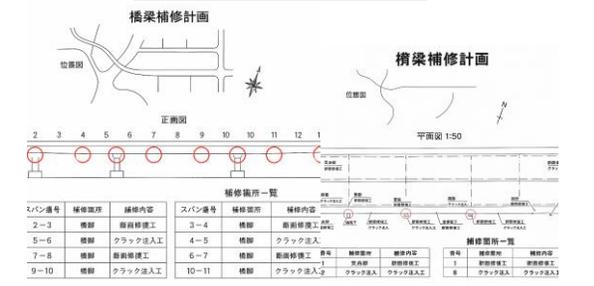
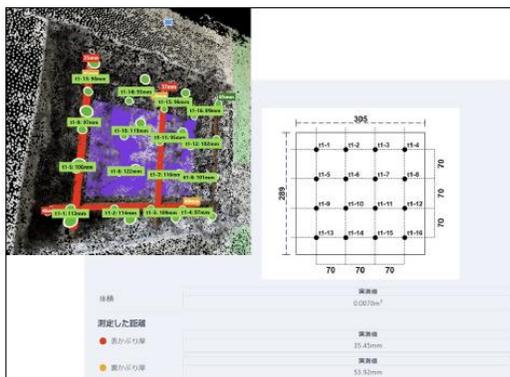
引き継ぎ情報



修復後点群



モデル化、図面出力  
発注用資料作成



# 精度検証

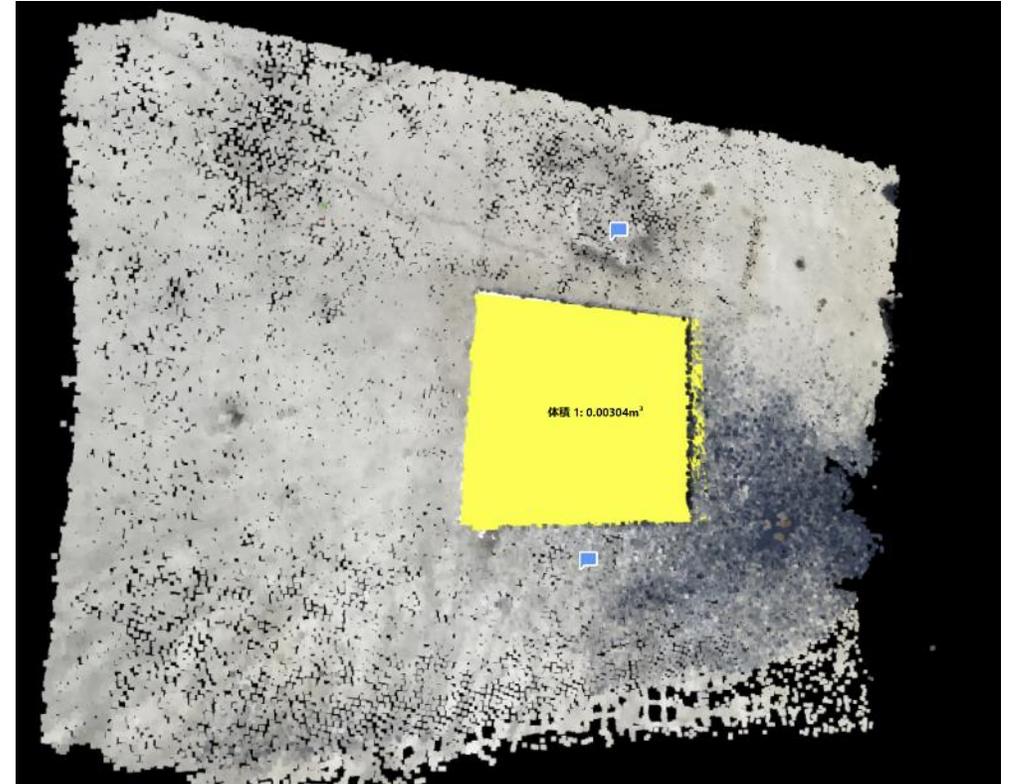
---

## 水を入れた体積 vs Hatsulyによる体積

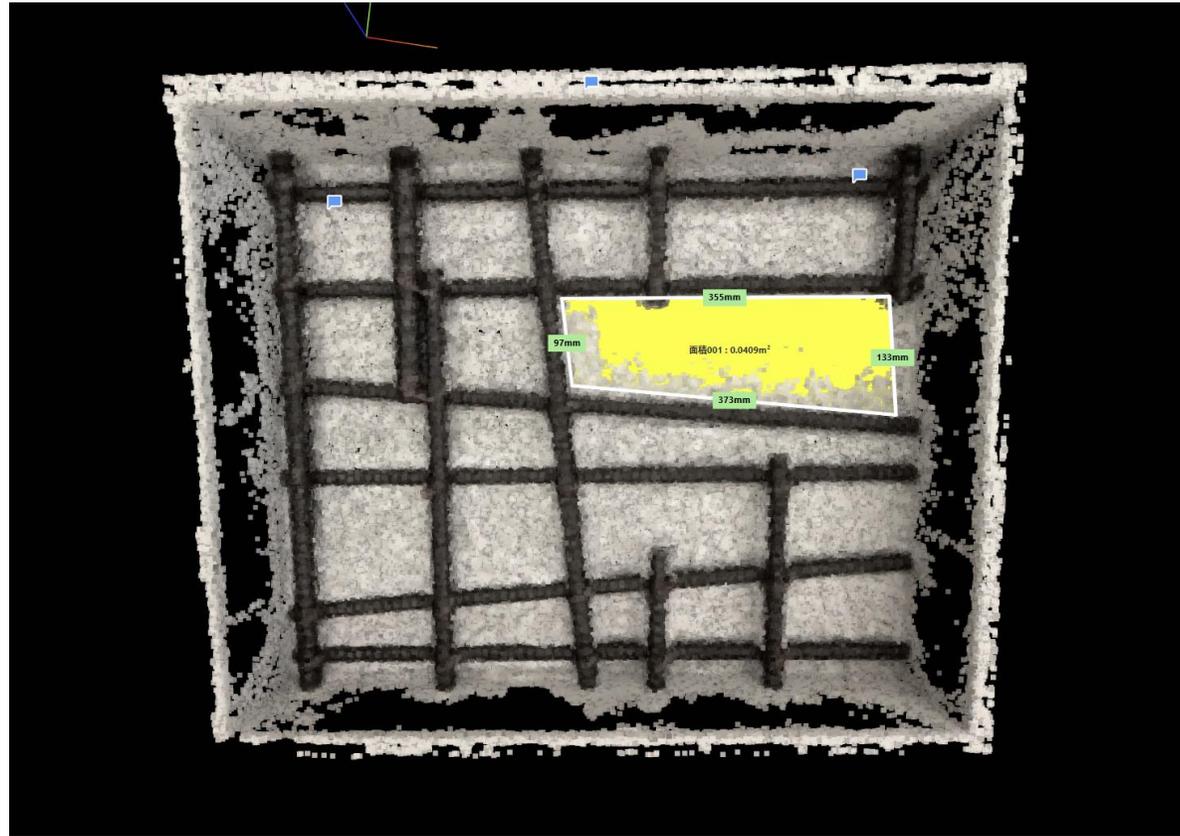
水量：約3L →  $0.003\text{m}^3$



Hatsulyによる測定値：  
 $0.00304\text{m}^3$

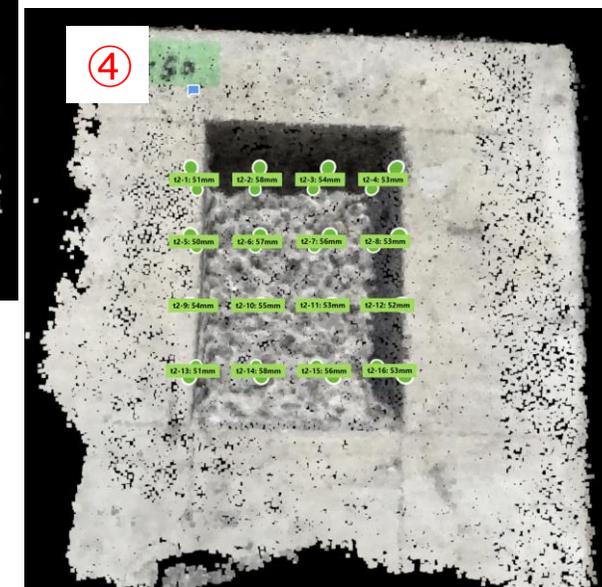


お客様からのフィードバックをもとに、現場での運用に即した機能を継続してアップデート



任意箇所面積測定機能

③ 特定のポイントで測定    実測 : 33 mm    Hatsuly : 34mm  
4. 設計値との比較        設計値 : 50mm    Hatsuly : 平均54mm



# 導入実績

---

## 導入実績のご紹介

株式会社奥村組 太田原 和基 様

躯体のリニューアル工事での活用！断面修復の出来形計測による省力化を実現！



躯体のリニューアル工事にて、研り出した躯体の配筋状況とモルタル量の算出にHatsulyを利用させていただきました。iPad1台で時間を要せずに断面修復の出来形を計測できるため、職員の省力化が図れると共に発注者に対して速やかな情報共有が可能になりました。

また、発注者に対しBIM/CIM事例として提案でき、発注者・請負業者共に効率化が図れると期待しています。



現場次第では既に10点満点のシステム！断面修復工における出来形管理をHatsulyで大幅省力化！精度面も問題なく活用可能！

明治39年に土木工事業三谷組として創業以来、100年以上に渡って構造物を提供し、地域産業や地域住民の安全・安心に貢献してきた入交建設株式会社。絶え間なく技術力の向上や創意工夫を続け、多くの若い人材の育成などにも積極的な同社に、断面修復工におけるHatsulyの活用方法をお伺いしました。

## 四国地整 入交建設様 断面修復工での適用事例

断面修復箇所1200か所でHatsulyを使用  
通常、2名で3～5分かかる作業を、1名で数秒～30秒で実施し、  
55時間以上の時間短縮を実現！

発注者様からも断面修復工の作業時間の省力化というだけでなく、将来的には点群データと3Dモデルを管理図等や補修履歴などに紐づけて維持管理に活かせるといいというコメントを頂いています。

### 【導入事例】入交建設様

## ユーザーの声 (東海建設株式会社)



3D出来形として使いやすく従来にない画期的なシステム

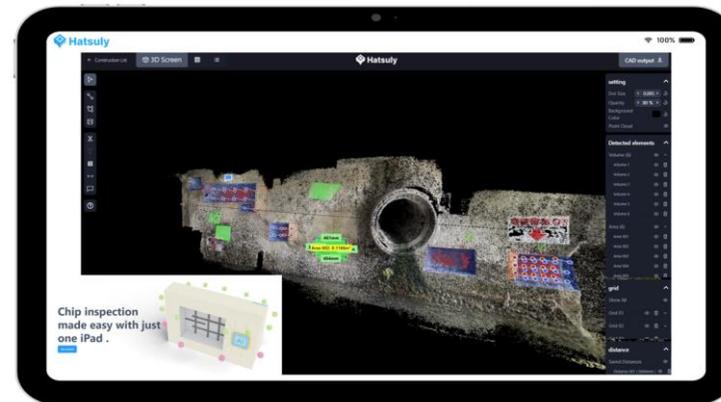


省力化、高精度、ヒューマンエラーの防止、品質の向上に寄与



補修検査システムとして「ここまでやれるのか」と発注者も高評価

## 導入企業ロゴ (一部)



株式会社IHIインフラ建設



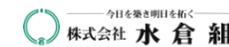
丸入交建設株式会社



人・街・未来、響きあう感動  
株式会社 植木組



東急建設



## 取組①：発注者による実導入に向けた試行の開始

静岡県沼津土木事務所

### 3Dデータを用いた橋梁補修工事の出来形管理について（試行）

#### 1 概要

- 橋梁補修工事の断面修復工におけるはつり箇所を3次元（3D）点群データから自動算出することにより、工事受注者が行う出来形管理の業務効率化を図ることを目的とする。

#### 2 従来の出来形管理

- 断面修復工（はつり）の出来形管理は、幅・延長・厚さを全数管理する（写真管理項目も同様）ため、補修規模が大きくなるほど、業務量が膨大となる。
- はつり箇所の仕上がり面に水糸や張りメジャーではつり深さや厚さを計測するため、工事受注者の自主管理及び監督員の段階確認に時間及び人員を要する。

#### 3 3Dデータを用いた出来形管理

- LiDARを使い、はつり箇所の点群データを取得することにより、はつり深さや厚さ、体積を自動算出でき、出来形管理に要する時間が大幅に短縮可能。
- 算出データは帳票に自動記録され、設計値や規格値との比較も可能。
- アクセスURLを共有することにより、受発注者間での出来形確認ができるため、段階確認に要する時間が大幅に短縮可能。

## 取組②：施工者（加和太建設さま）によるHatsuly試行導入現場での勉強会開催

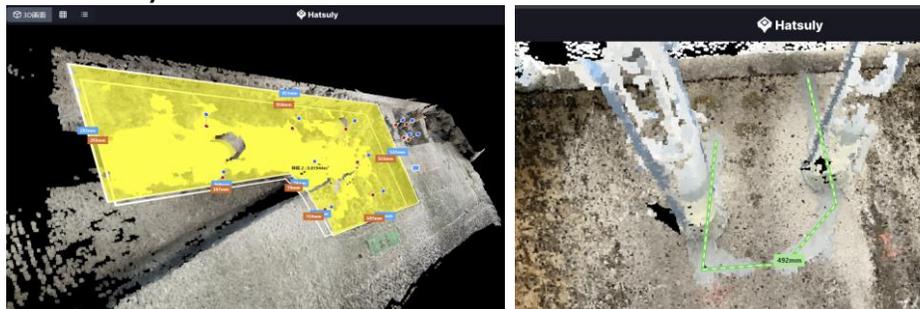


① 従来方法での計測の様子

② iPadでの点群スキャンの様子

③ 概要説明時の様子

### 【Hatsulyの3Dデータ】左：はつり箇所 右：クラック補修



本工事は規模が小さかったが、従来方法と比較して**省力化効果を実感した。**  
 検査箇所数が増えれば**更に効果が大きくなる**ことが期待できる。



加和太建設さまの声

## 協働テーマ

先端技術を活用した港湾施設の図面・施設台帳の自動生成により、補修工事業務を効率化したい！

### ■ 現場課題

#### 課題詳細

①点検結果を受けた補修工事の発注に際して図面を作成する必要があるが、計測結果と写真を見て作成する必要があり、労力を要する。  
②得られるデータが有効に蓄積・活用されず、①の作業を都度実施しているため、時間/費用を要する。

#### 課題解決による 想定成果・効果

今まで手動で行っていた①付属施設および②舗装施設の「図面作成、数量算出業務」を、3Dデータ処理、自動モデル化技術を用いて効率化する事により、全体で従来プロセスに対して業務時間を **5割削減**させる。

### ■ プロジェクト概要

#### 課題に対する ソリューション

現場での計測作業を点群データの取得による方法で代替し、点群データから図面や3Dモデルを自動生成し、必要な数量情報の取得、帳票・図面の作成を効率化する。

#### 協働 プロジェクト 内容

期間：2024年10月～2025年2月  
対象：東京港内の附属施設及び舗装施設  
実施事項：  
(1)附属施設及び舗装施設の点群をLiDAR付属のiPadで取得  
(2)点群から2D図面作成及び発注に必要な数量算出

#### 成果

- 計測・記録に係る人員や作業時間の削減
- 作図や数量算出、発注業務にかかる作業時間の削減
- 付属施設及び舗装施設補修業務のそれぞれにおいて**61%、80%**の業務時間の削減を確認（※発注図面作成作業は含まない）
- 3Dデータを共有・利活用することで職員のみならず、**補修業者の作業時間削減期待**あり



従来方法での計測方法



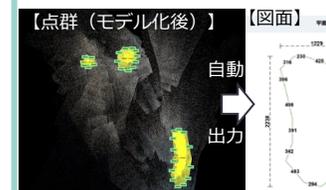
改善後の計測方法



モデル化 ↓ 自動出力



付属施設の点群および図面



舗装施設の点群および図面

## 東京都港湾局との随意契約 に係る認定（取得済み）



認定期間中、東京都各局は競争入札によらないの随意契約で当社サービスを購入・使用することが可能

### 庁内他局展開

- 東京都交通局
- 東京都下水道局  
Bureau of Sewerage
- 東京都水道局  
Bureau of Waterworks  
Tokyo Metropolitan Government
- 東京都建設局  
BUREAU OF CONSTRUCTION  
未来をつくるう...まち・水・緑～

スタートアップ・国際金融都市戦略室と連携しながら、同様のニーズを持たれている他局に横展開

# ご利用の流れ

---

# STEP 1

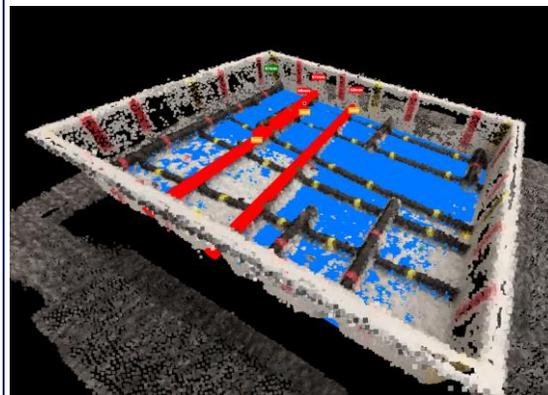
## 計測



LiDAR付のiPad等で  
対象箇所の点群を取得

# STEP 2

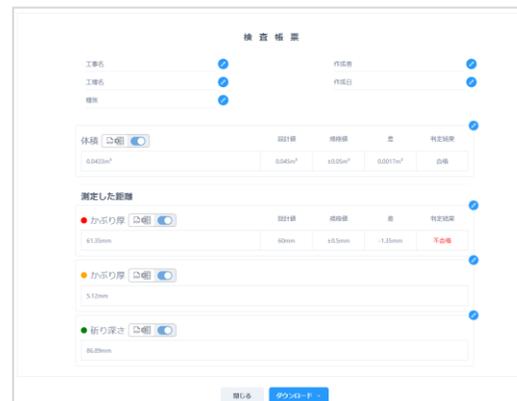
## モデル化



点群データをモデルに変換

# STEP 3

## 数量算出・帳票化



深さと体積を  
自動算出し帳票化

# STEP 4

## 共有・報告



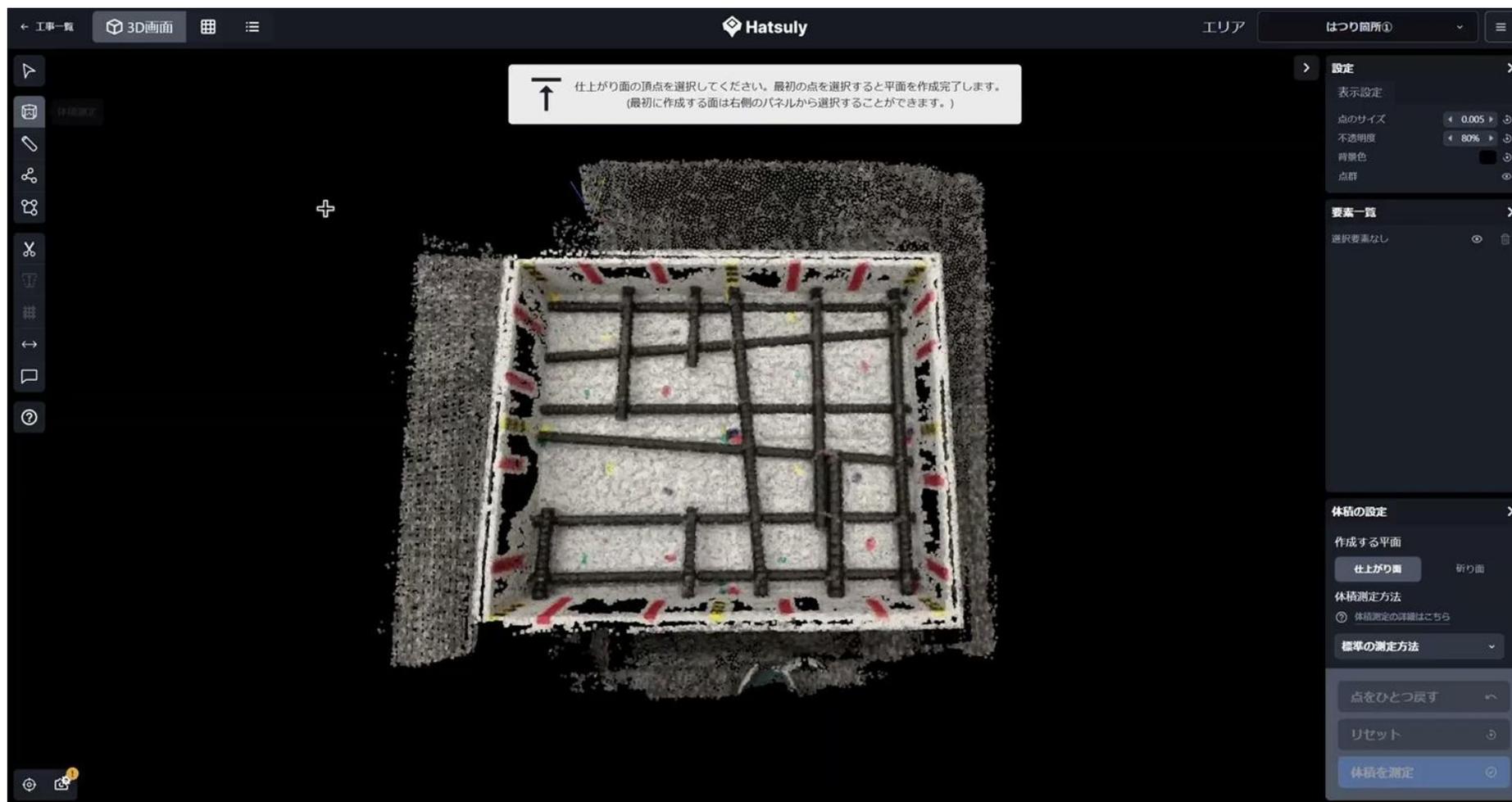
3次元データと帳票を  
クラウド上で共有

iPad Proでののはつり箇所計測から、Hatsul上での帳票作成まで、約3分の簡易的な作業イメージ動画です。

## Step 1 : 計測（17秒）



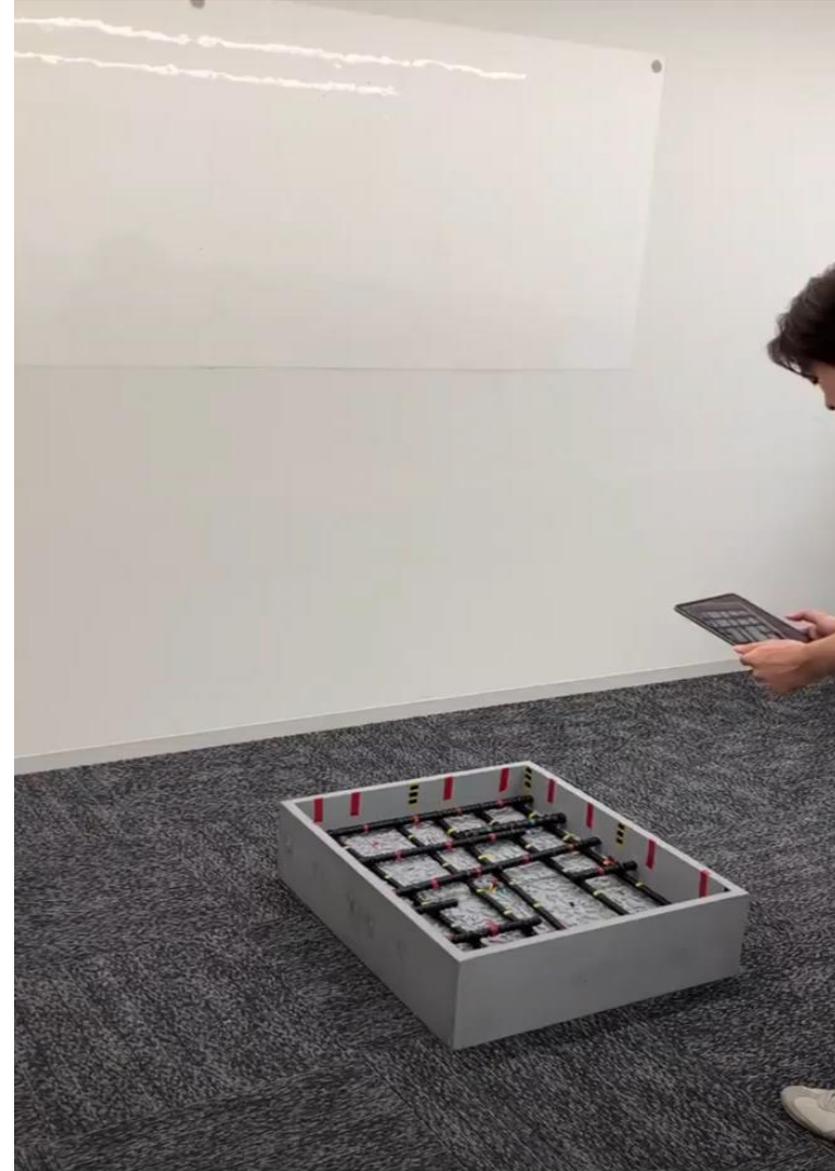
## Step 2 : モデル化・Step 3 : 帳票化（約3分）

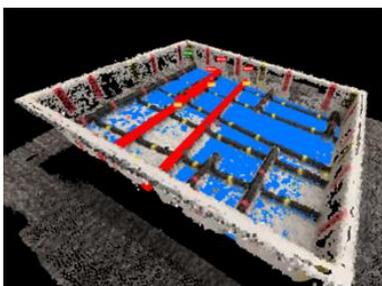


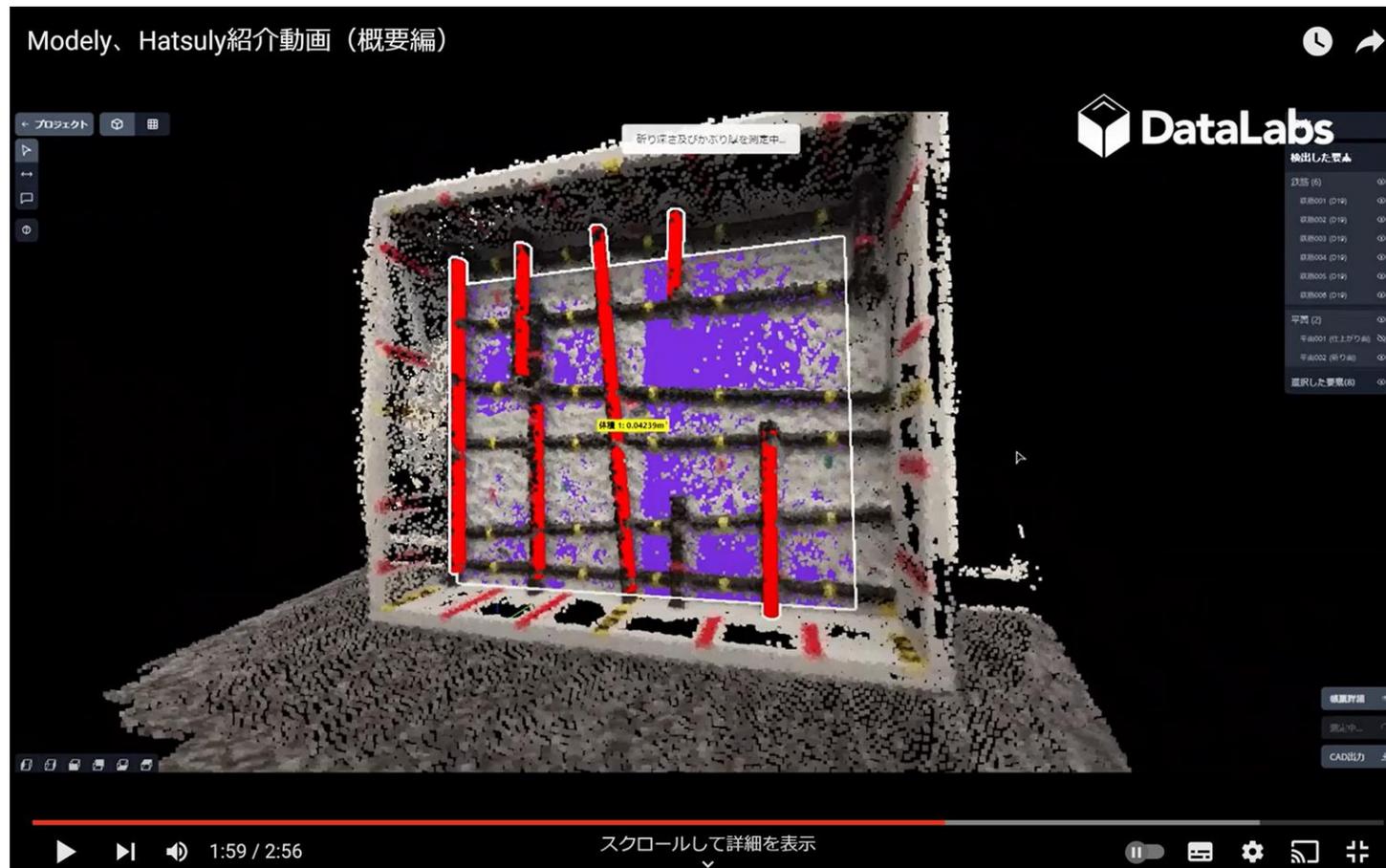
STEP 1  
計測



LiDAR付のiPad等で  
対象箇所の点群を取得



<p><b>STEP 2</b> モデル化</p>	<p><b>STEP 3</b> 数量算出・帳票化</p>
	
<p>点群データをモデル に変換</p>	<p>深さと体積を 自動算出し帳票化</p>



※画像をクリック頂けると、動画がご覧になれます。  
(Hatsulyについては 1:05～で紹介されます)



PIX4D**catch**



PIX4D**cloud**

### メリット

- 処理速度が速い
- 操作がシンプル
- 無料で使用できる
- 計測のコツが少なく、撮り直しが少ない
- 広範囲でも計測できる

### デメリット

- 計測にコツがあり、撮り直しが生じやすい
- 対象物や現場状況によって、計測方法や難易度が変わり易い
- 計測画面が赤くなりがちで、計測状況が分からない
- 広範囲を撮ると処理が不可、または精度が悪化する
- 3次元データの生成処理に、少し時間がかかる
- 点群解析が有償

測定対象



※Pix4Dで撮影した点群データ



※Pix4Dで撮影した点群データ

# 機能情報

---

主要機能	概要
体積測定	作成したはつり面と仕上げ面で挟まれた体積を自動で算出します。任意多角形に対応。
はつり面積（幅×長さ）算出	出来形管理で必要となる幅や長さ、外周、面積が自動で計算されて、帳票に表示されます。また、モデル作成時に長さが表示されるので、モデルの作成が簡易になりました。
任意点での平均はつり深さの算出	任意のグリッド幅をシステム上に作成し、グリッド交点から垂線を降ろし、はつり深さを算出します。それらから、平均はつり深さを算出します。
鉄筋の表面積を自動算出	防錆材等の量を見込むために、鉄筋をモデル化すると鉄筋の表面積が自動算出されます。
かぶり厚の算出	鉄筋をモデル化することで、鉄筋から想定仕上げ面までのかぶり厚と、はつり面から鉄筋までの距離を自動で算出します。
設計値との比較	帳票に設計値を入力することで、設計値との差異を確認できます。
関係者招待機能	招待メールを送信することで、関係者様にビューワーとしてご覧頂くことができます。
Hatsuly上での距離の測定	Hatsulyで任意の箇所の距離を測定できます。
配筋モデルのdxf、ifcでの出力	作成されたはつり面、仕上げ面、鉄筋のモデルを出力できます。
検査帳票のExcel、PDFでの出力	検査帳票をexcel等で出力して、検査書類として頂くことも可能です。



# ご利用料金

---

Hatsulyご利用に係る料金は、点群データの計測アプリ、Hatsuly、サポートの合計料金です。

## Hatsuly利用に係る料金

計測アプリ (※)



PIX4D**catch**



PIX4D**cloud**



サポート



(※) 計測アプリにScaniverseを利用する場合は、計測アプリの料金はかかりません。

クレジット数に応じて課金されます。

クレジットの計算はこちら (<https://www.pix4d.com/jp/pricing/pix4dcloud/>)。

	月間プラン	年間プラン
請求金額	11,000円/月 (税込)	110,000円/年 (税込)
クレジット数	20クレジット/月 (年間上限500クレジット)	
アカウント共用	制限なし	
備考	<ul style="list-style-type: none"><li>PIX4Dcatchを用いて計測する場合、月間20クレジットで計測できる範囲は約150平米程度です。(カメラ解像度2.7MP)</li><li>ただし、対象物の過密具合や現場状況によって画像枚数は変わりますので、あくまでも目安です。</li><li>クレジットは、60日以上の有効なライセンスがある場合、キャリーオーバーされます。</li><li>月間プランの場合はオンライン決済のみ、年間プランの場合はオンライン決済または請求書決済を選択できます。</li><li>年間プランの場合は、年額を初月に一括払いとなります。</li></ul>	

	料金プラン	備考
初期費用・更新費用	275,000円（税込）/回・年	<ul style="list-style-type: none"><li>初期利用日の翌年の前月末日までのデータ保管・閲覧料金を含む</li><li>初期利用日の翌年の前月末日までに解約手続きを行わない場合、更新（自動更新）</li></ul>
利用月追加料金	132,000円（税込）/月	<ul style="list-style-type: none"><li>利用する月のみ、月初に表示される有償機能ボタンを押すこと機能の利用が可能</li><li>日割りではなく、月額の課金</li></ul>

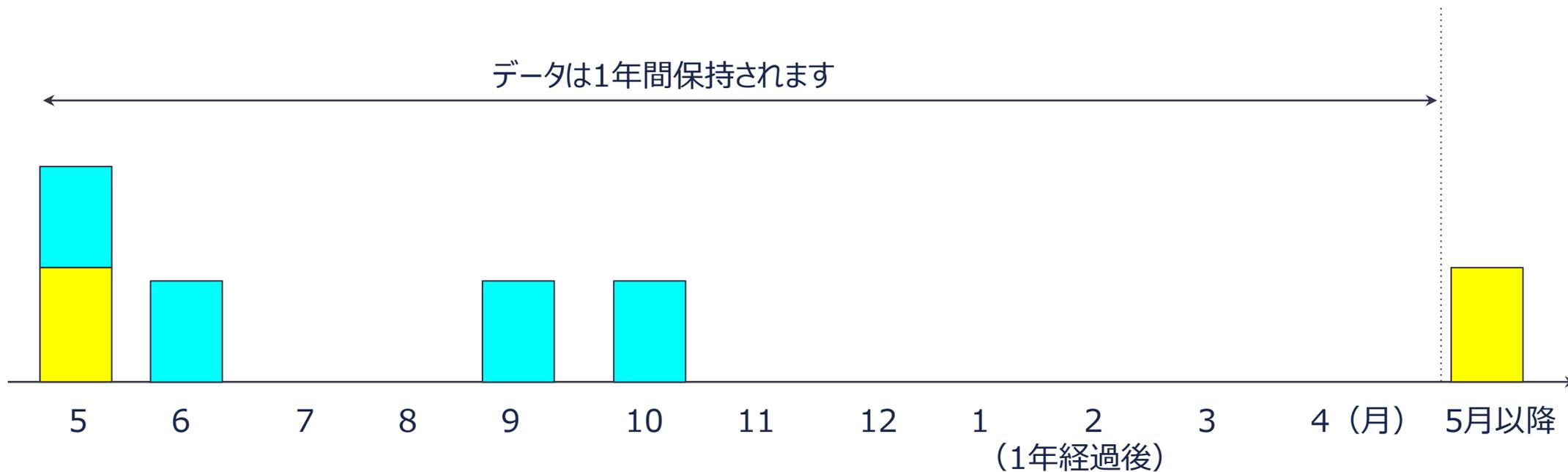
契約後 3 か月間は、専任のサポートメンバーが付き、お客様のカスタマーサクセスをご支援します。

サポート内容		有料 / 無料	必須 / 任意	期間
専任サポート	初回利用前の、オンラインキックオフMTG	無料	必須	3か月間以内
	初回利用時の、現場計測および操作支援	有料（※ 1）	任意	3か月間以内
	事前協議資料作成の支援	無料	任意	3か月間以内
	専任サポート延長	有料（※ 2）	任意	4か月目以降
非専任サポート	メール、フォームでの問合せ対応	無料	任意	期間の定め無し

（※ 1）出張旅費 + 88,000円目安

（※ 2）別途お見積

5月から契約を行い、4ヶ月間（5、6、9、10月）利用する場合



- 初期費用以外は利用月にのみ発生します。
- 利用の有無によらず、データは1年間保持されます。  
1年経過時点で延長することでデータは引き続き保持されます。

初期費用・更新費用
  月額利用費

ご不明点など、何でもお気軽にお問い合わせください。

DataLabs株式会社 / DataLabs, Inc.  
SaaS営業統括本部

Address : 〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町8-6 H<sup>1</sup>O 日本橋小舟町 709号

Tel : 03-6810-8520 (代表)

Mail : [sales@datalabs.jp](mailto:sales@datalabs.jp) HP : <https://datalabs.jp/>



# BPO オプション

---



上記ワークフローについて、弊社が代行して請け負わせていただきます。

※サービス提供範囲の詳細、金額は別途お打ち合わせの上、ご提案いたします。

BPO : Business Process Outsourcing  
(業務アウトソーシング)

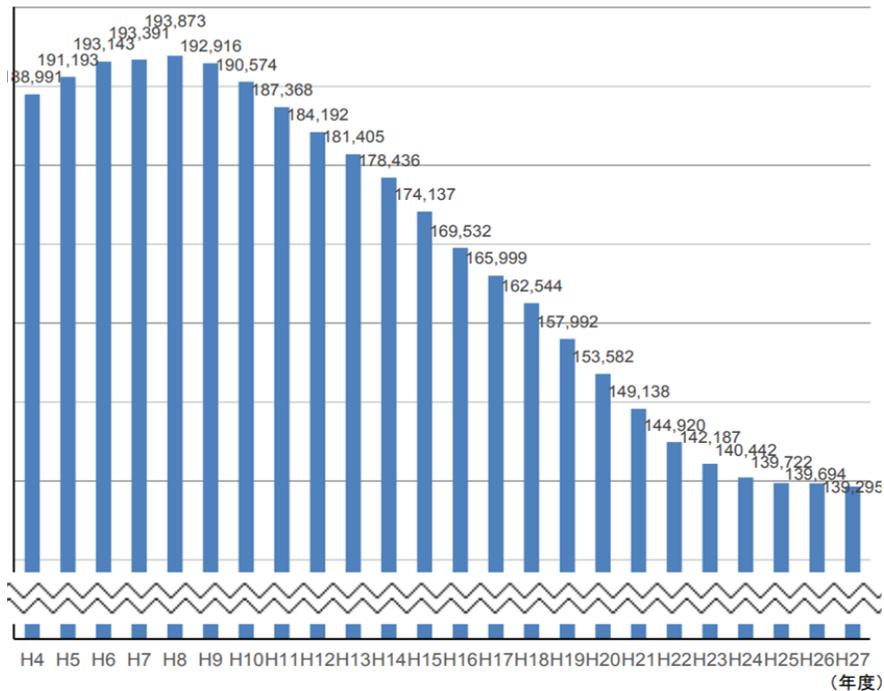
# Appendix

---

# 検査する施工管理技士の人口は減少化 建設後50年以上の橋梁は2030年に40万橋

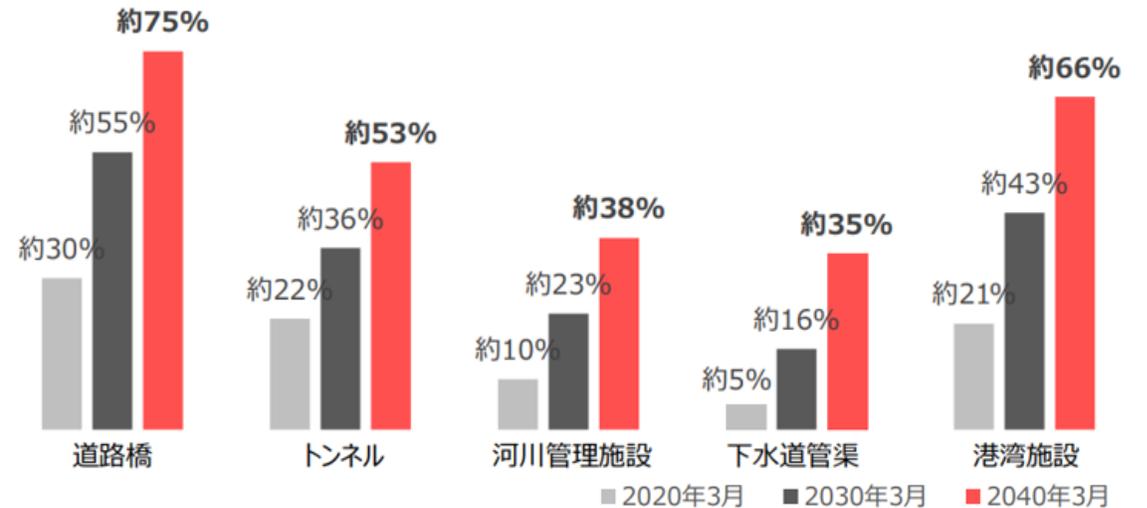
## 発注者職員数

28年間減り続けている



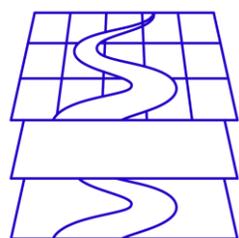
## 老朽化するインフラ数

建設後50年以上経過する割合



# デジタルツインを活用した維持管理業務の高度化

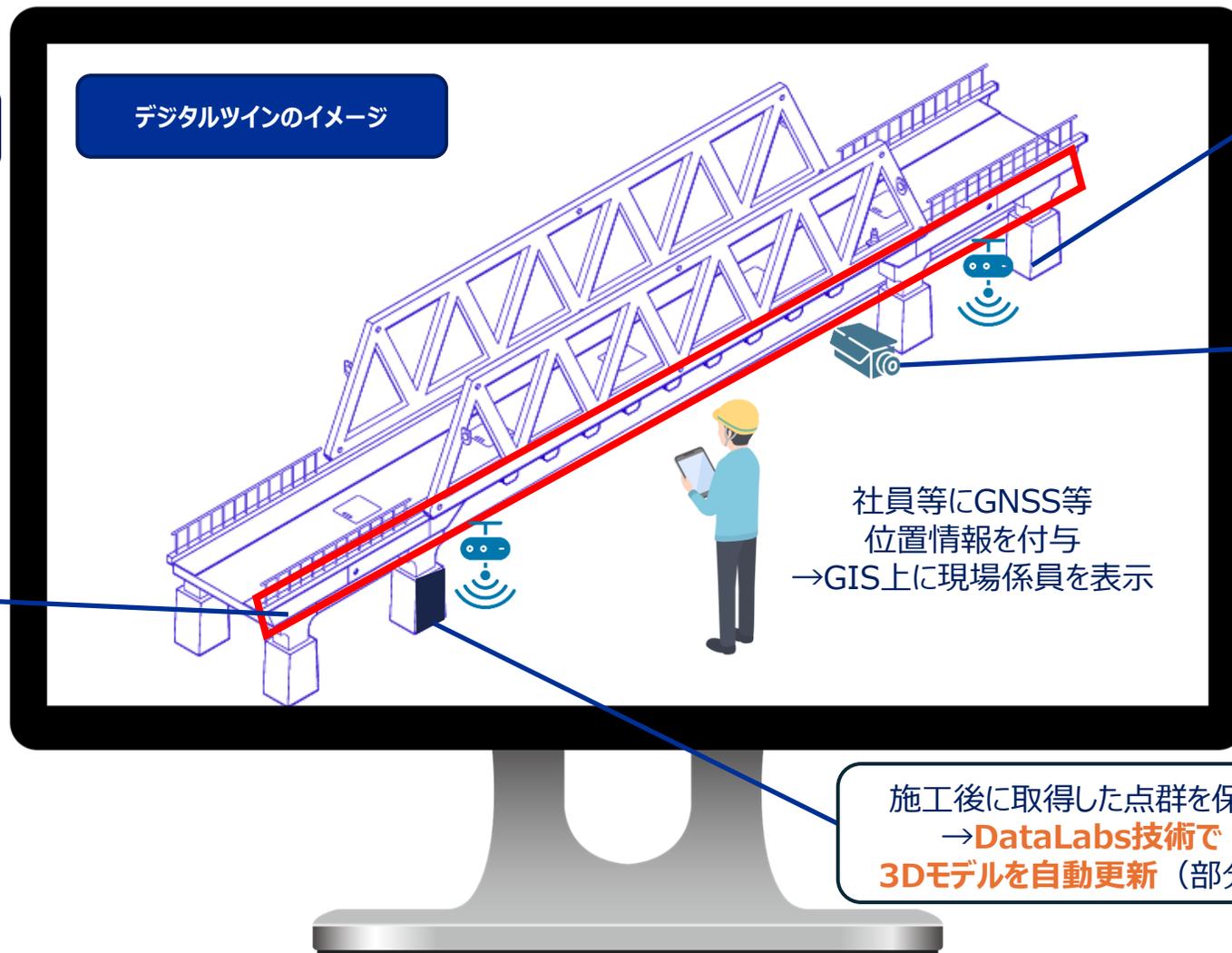
実現したい将来像の例



GIS画面イメージ

拡大  
イメージ

デジタルツインのイメージ



センターを選択  
↓  
BIツール表示、**モデルに反映**

カメラを選択  
→ 付近のWEB  
カメラ等を表示

**各構造物のモデル**を選択  
→ 関連範囲が色付け  
関連情報を表示

施工後の成果物を保管  
→ 構造物諸元・工事履歴・  
財産情報を**モデルに紐づけ**  
**自動で更新**

社員等にGNSS等  
位置情報を付与  
→ GIS上に現場係員を表示

施工後に取得した点群を保管  
→ **DataLabs技術**で  
**3Dモデルを自動更新** (部分)